

2 酪農について

牛乳は、乳用牛(牛乳をたくさん生産できる牛)から、毎日、乳をしぼり、工場で殺きんなどをして、みなさんに届けられます。

乳用牛を飼う酪農場では、毎日、えさをあげたり、乳をしぼったりしています。

バター、ヨーグルト、アイスクリーム、チーズなども、乳用牛の乳から作られます。

〈乳用牛の種類〉

①ホルスタイン種



特ちょうは、体が黒と白、大型で乳量が多いことです。

原産地はオランダやドイツのホルスタイン地方で、一番多く飼われている品種です。

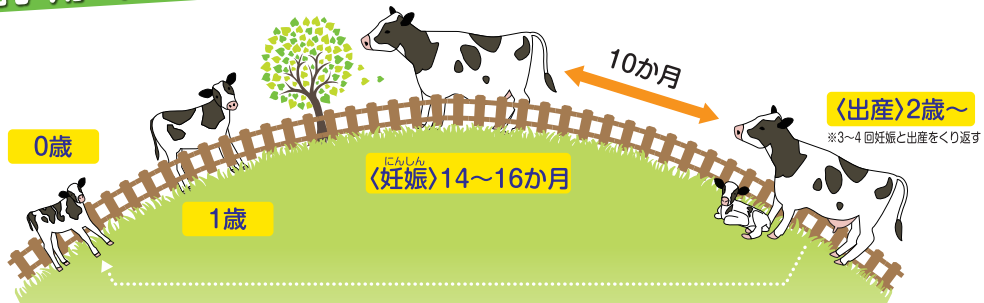
②ジャージー種



特ちょうは、体がかつ色、小型で乳量は多くありませんが、乳しぼり率が高く、バターやチーズなどを作るのに適しています。

原産地は、イギリス海峡のジャージー島です。

乳用牛の一生



- 乳用牛は生まれて約14~16か月で妊娠します。
- おなかの中で約280日間育てます。
- 子牛を産み、母牛となって、初めて乳をしぼれるようになります。
- 出産後は約60日後に再び妊娠させ、次の出産の約2か月前まで、乳をしぼります。

出典: 中央酪農会議

酪農場の1日(大森カウステーションの場合)



ある日の1日のスケジュール

※つなぎ牛舎の場合

朝

5:30

ミーティング

6:00

牛がえさを食べる場所
と牛舎のゆかそうじ

7:00

えさやり
さく乳

10:00

牛舎のそうじ

昼

12:00

昼休み

15:30

ミーティング

16:00

牛がえさを食べる場所
と牛舎のゆかそうじ

17:00

えさやり
さく乳

夜

20:00

牛舎のそうじ

乳用牛から乳をしぼっている酪農場では、どんな仕事をしているのでしょうか。

【つなぎ牛舎とフリーストール牛舎】

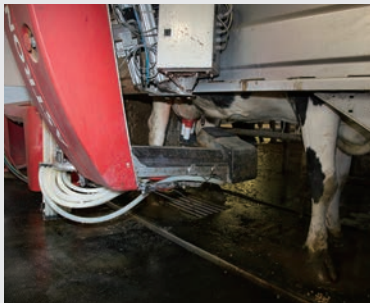
牛舎には牛をつないで飼う「つなぎ牛舎」と、仕切りがなく牛が自由に歩き回れる「フリーストール牛舎」があります。

つなぎ牛舎は、ほとんどが人による作業ですが、こちらの牛舎ではロボットが代わりにさく乳などの作業を行い、データをパソコンで管理しています。

大森カウステーションでは、現在ホルスタイン300頭をさく乳しています。

●さく乳ロボット

24時間、自動で牛の乳をしぼるロボットです。牛は自分から機械に入り1頭あたり、1日3~4回さく乳を行います。



●えさ寄せロボット

牛が食べやすいように、えさを寄せるロボットです。大森カウステーションは、全国で2番目に早く導入しました。



●自動カウブラシ

体のかゆい所をあてるとブラシが回転し、ブラッシングしてくれます。



しぼった乳は、バルククーラー(タンク)で冷やされます。生乳はタンクローリー車で牛乳冷却処理所に運ばれ、検査を経て県内外の工場に送られ、各乳製品となって、みなさんのもとに届けられます。



豆知識

～乳を出すのはメス牛だけ。じゃあ、オス牛はどうなる?～

オスの子牛は、次のページの「肉用牛」として育てられ牛肉となります。乳用牛のオスの子牛は、成長が早く、お手ごろな価格の牛肉として売られています。



酪農場で働く人のしょうかい



有限会社
大森カウステーション (上北郡六ヶ所村)

有限会社 大森カウステーション 代表取締役 大森 敏雄さん

①酪農のやりがい、おもしろさ

- 牛は牧草を牛乳に代えてくれます。また、牛のふん尿は、稲わらやおがくすと混ぜあわせることで肥料に生まれ変わります。
- 無から有を生み出す仕事はとてもおもしろいですし、地域全体が元気になる仕組みを考えてちょうせんし続けるのも楽しいです。



②酪農で重要なこと

- 効率化、省力化するためにロボット化が進んでいます。また、病気や旅行で作業ができない時に、代わりに作業をしてくれる酪農ヘルパー制度もあります。
- 健康な牛を育ておいしい牛乳を生産すること、人も時々休みながら楽しく働くこと、どちらも大事なことです。



③みなさんへ伝えたいことやPR

- 酪農の仕事は大変だと思うかも知れませんが、自分で休みを決められる自由さもあり、地域には仲間もいて助け合うことができます。
- みなさんの体づくりに欠かせないおいしい牛乳を作るため、責任を持って日々取り組んでいます。

